

授業概要

環境心理学は、「人々とその環境との間の相互作用や関係性をとらえる分野」であるとの定義もあるが、人間と環境の関係を明らかにする学問領域である。

環境心理学に関する基本的な知識・理論、および現実における実例を広く扱う。環境認識や環境調整に対する適応力を高めるなど、個々人の社会生活に応用できることもねらいとして講義する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス(授業の進め方、環境心理学とは)
第 2 回	環境の知覚と認知
第 3 回	環境の評価
第 4 回	環境査定と環境デザイン
第 5 回	パーソナリティ・個人差と環境
第 6 回	対人・社会環境
第 7 回	住環境と都市環境
第 8 回	中間総括
第 9 回	施設環境(教育環境、労働環境、医療・福祉環境)
第 10 回	施設環境(続き)
第 11 回	自然環境
第 12 回	犯罪と環境
第 13 回	環境配慮行動(地球環境問題)
第 14 回	環境心理学の実践的研究例(外部講師の招聘を検討)
第 15 回	全体総括
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・環境がどのように認知され、人や社会にどのような影響を与えているのかが理解できる。
- ・自身の環境に対する認識を深め、環境調整に関して理解できる。
- ・人と環境間の様々な相互作用を理解し、自身の社会生活に応用できる。

履修上の注意

- ・講義だけではなく、グループ討議やワーク演習など学生参加型の学修時間があることを理解したうえで履修すること。
- ・授業中の私語、授業と関係しない作業(携帯等の使用など)を禁止。30 分以上の遅刻は欠席扱い(電車遅延など合理的理由がある場合は、証明書の提出を)。
- ・受講学生の希望や状況、進み具合により、授業計画の順番を入れかえることや、内容を一部変更することもある。

予習・復習

- ・毎回、最後にポイントを確認する時間を取るため、復習に役立てること。
- ・ワークシート課題など、予習(宿題)を設定する回もある。

評価方法

授業内レポート 30%、中間レポート 20%、定期試験 50%を総合的に判断する。

テキスト

教科書指定はなし。授業用資料を毎回配布し、参考図書を適宜紹介する。